

地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市北地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人 姫路市社会福祉協議会
所在地	〒670-0802 姫路市砥堀428 (中央保健センター北分室内)
電話	079-264-6153
FAX	079-264-1512
ホームページURL	https://www.himeji-wel.or.jp

【センターの案内】

センターまでの交通手段	JR播但線砥堀駅より徒歩8分 神姫バス 砥堀バス停より徒歩5分
-------------	------------------------------------



【センターが所在する地域の特徴・特性】

姫路市の北東部に位置し、砥堀・豊宮・船津・山田の4小学校区を担当しています。

特定非営利活動法人 はりま総合福祉評価センター

[令和7年度姫路市地域包括支援センター適正運営評価]

姫路市の北東部に位置し、砥堀・豊富・船津・山田の4小字区域を担当しています。
砥堀地区は商業施設や医療機関、民間企業なども多く、生活に便利な場所です。高齢化率は24%で姫路市全体の平均値と同様です。新興住宅地や賃貸住宅も混在し、多様な世帯があります。
豊富地区より北東に向かうと、広大な農村地で人口密度が低いことから移動には車が必須となります。特に船津地区、山田地区では高齢化率が38%前後となり、少子高齢化も進んでいます。二世帯、三世帯での同居率は高く、戸建ての住宅がほとんどです。
また、昔ながらの「家族、親戚、隣近所で助け合う」という価値観が根差しています。
畑作業や地域行事を通して顔の見える関係性があり、住民同士のつながりが深いのが地域の特徴と言えます。地縁組織がしっかりしており、様々なつながりや活動の仕組みがありますが、同時に組織の担い手の高齢化や負担の偏り、次世代との価値観の二極化もあると言えます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

センターでは様々な相談に対して、チームアプローチを重視しています。毎日の朝礼や月次のミーティングにおいて、全職員で相談内容や支援方針を共有しています。職種を問わず、いきいき百歳体操や認知症サロン、生活支援体制検討会議や事業所の運営推進会議などに出席しています。
また、地域の住民組織(連合自治会や民生委員定例会など)と顔の見える関係づくりをしています。地区ごとに地域アセスメントを行い、その傾向を捉えた取り組みを行っています。自治会や民生委員を中心に地域包括支援センターの役割を周知できつつあり、地域住民からの相談が増加しています。
同時に、地域の医療・福祉の専門職間で事業所を超えたつながりができるように力を入れています。住民と地域の専門職が連携できる機会づくりをしています。

【令和8年度末の担当圏域の目指す姿】

住民同士、民間、ボランティア、専門職等のつながりが強化され、自助・互助・共助の力が向上している地域の姿を目指します。
いきいき百歳体操をはじめとした既存の通いの場が継続しており、住民主体で活発に活動されています。
総合相談での事例から地域ごとの特性や課題を抽出し、必要な支援を検討できるようになっています。
また、多様な通いの場や生活支援体制検討会議などを通じて、住民と専門職が連携できるようになっており、高齢者が孤立しない地域づくりに取り組みます。

地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市北地域包括支援センター
実地調査日時	2024年11月13日

【第三者評価で確認した主な特徴的な取り組み、好事例など工夫点】

・職場環境整備として、センター内のミーティングで情報共有と組織的判断を徹底するとともに、ピアチェック体制で相互に業務相談や改善提案を行いながら日々の業務を進めています。

・35か所のいきいき百歳体操の場で定期的なフレイルチェックとフレイル予防の啓発をしています。

・活動が継続できるようチームへの後方支援を行い、世話人を対象とした交流会を開催したり、専門職の講座を積極的に取り入れています。

・多職種で情報交換会を行い、地域課題の共有や事業所同士の連携強化の場を定期的に行い、地域の専門職が事業所を越えてつながれる場づくりが行われています。

【第三者評価で確認した主な次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

・緊急時などに備えて法人マニュアルを活用しながら北地域包括支援センター独自の詳細マニュアルを更に作成しそれぞれが冷静に行動できるよう支援体制強化に期待します。

・通いの場へのアクセス方法や施設環境(バリアフリー)にも目を向け、住民の方が行きたくなるような空間ができることを期待します。

・地域住民及び専門職に向け、人生会議の啓発を進められていますが、特に専門職への研修では視点が終末期に向けての取組みとなる傾向があります。今後は、地域包括支援センターの目的や目指す地域の目標となる視点(地域で暮らし続ける視点)を取り入れられたものになることを望みます。

【市民(住民)からの意見やコメント及びその他の視点】

・通いの場に参加していない高齢者や、若年世代に対して地域包括支援センターの存在や役割の周知に期待します。

【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

評価内容を受け止めながら、引き続き令和8年度末の目指す姿に向けて取り組みを進めていきます。

「北ワンチーム」として、住民同士、民間、ボランティア、専門職等のつながりが強化され、地域のあるべき姿共有しながら、それぞれの強みを活かした地域づくりを行います。

		地域包括支援センターの体制確保	
評価項目・着眼点		事業計画の策定	
	①	市の示すセンターの事業計画作成方針をもとに担当区域の地域特性や地域課題に応じた事業計画を作成し、進捗の管理や定期的な自己評価を行っている。	
		職員の姿勢	
	②	センター業務は、地域の高齢者等の心身の健康の保持及び生活の安定のための必要な援助を行うことを念頭におき、常に当事者に最善の利益を図るために業務を遂行している。また、実践力を向上するために、行政やセンター連絡会が開催する研修へ参加するとともに、自己研鑽に努めている。	
		個人情報保護	
	③	個人情報の取扱いは、個人情報保護法及び業務委託契約書に定める事項を遵守し、個人情報の収集・利用・提供は本人同意を原則として厳重に管理し、守秘義務を厳守している。	
	広報活動		
④	センターの業務への理解と協力を得るために、広報紙の作成やパンフレットを活用し、関係機関への配布並びに啓発を行う等、地域住民及び関係者へ積極的に広報している。		
	苦情（カスタマーハラスメント含む 対応		
⑤	センターに対する苦情について適切に対応し、必要時に応じて市へ報告している。		
センター 記入欄	取り組みの状況	①事業計画を全職員で作成し、定期的に振り返り・評価を行っています。 ②各種連絡会や研修に積極的に参加し、センター内での勉強会もミーティングの時間を活用して行っています。 ③契約書等の書面に基づき守秘義務を厳守しています。 ④ほうかつだより配布の他、公民館講座・自治会・民生委員・小中学校・地域の通いの場での啓発活動を行っています。 ⑤苦情等がセンターに寄せられた場合は、法人の対応の流れに基づき速やかに対処しています。	
	現在課題と 感じていること	公民館講座・小中学校での講座など、定期的な開催が定着してきたところがあります。一方で、通いの場に参加していない高齢者や、若年世代に対して地域包括支援センターの存在や役割の周知はまだ途上と感じています。	
	目標達成の ための今後の 取り組み	自治会や民生委員・公民館・学校等の既存の関係性から、つながり作りを広げていくアプローチを続けていきます。また、地域の企業や商店等へのはたらきかけも取り組んでいます。	
評価 調査 者 記入 欄	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	・北地域包括支援センター内で、ワンチームを結成し、多職種が一丸となり様々な活動に尽力されていることがうかがえました。 ・事業計画を職員全員で考え作成し、定期的な振り返りをして、意識付けがしっかり行われています。 ・地域包括支援センターの取り組みについて、公民館講座・自治会・民生委員・小中学校・地域の通いの場での啓発活動が行われています。	
	次のステップ に向けた 気づきや期 待したい点	・北地域包括支援センターのチームの集結力が地域住民にも行き渡るように、若年世代に対して地域包括支援センターの存在や役割を周知していくことが期待されます。 ・また、必要な情報が必要なところへしっかり届くよう、情報発信の多様化が望まれます。	

評価項目・着眼点	基本目標1:介護予防や生きがいづくりのために住民や多様な主体が関わって地域の資源が整備・維持・活用されている	
	(基本的な考え方) 人生100年時代において、若年世代から生活習慣病とならないために健康的な暮らしを心掛け、高齢者は介護予防に努め、身近な地域活動への参加を増やし、いつまでも自分らしく、いきいきと暮らすことが大切である。「通いの場」などの地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくり、地域での普及啓発の推進、ボランティア組織の育成支援を推進する。	
	①	「通いの場」への継続参加がフレイル予防に効果があることを周知している。
	②	「通いの場」の継続した運営のためのボランティア活動や新たな通いの場の創設に取り組んでいる。
	③	「通いの場」への継続した参加が困難となる要因を分析し支援策を検討している。
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・35か所のいきいき百歳体操の場で定期的なフレイルチェックとフレイル予防の啓発をしています。 ・活動が継続できるようチームへの後方支援を行い、世話人を対象とした交流会を開催したり、専門職の講座を積極的に取り入れています。 ・新たな通いの場の創設に向け、地縁組織の役員へのはたらきかけをしています。
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場に来ていない住民に対して普及啓発が届かないと感じています。特に男性の参加が少ない傾向にあります。 ・世話人の負担感が大きかったり、人手不足だったり、活動をしたくても場所がないなど、住民の思うような活動できないことがあります。 ・あんしんサポーターの活用が十分とは言えません。
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場に来ない住民へのアセスメントを行い、啓発の方法を模索します。 ・既存の場へのアセスメントや解決策の検討ができるよう、世話人交流会を定着化させます。 ・登録しているあんしんサポーターの把握を行い、活動していないサポーターと負担感の大きいチームへのマッチングを行います。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の介護事業所とも連携をとりながら住民の方が通いの場へ足を運んでもらえるよう働きかけが行われています。 ・また、担い手の後任を育てる場として世話人交流会を積極的に活用され、新たな通いの場の創設に向けて取り組まれています。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・通いの場へのアクセス方法や施設環境(バリアフリー)にも目を向け、住民の方が行きたくなるような空間ができることを期待します。 ・潜在的なあんしんサポーターや認知症サポーターの人材を通いの場につないでいくことを期待します。

評価項目・着眼点	基本目標2:様々な生活上の困りごとを支え合いや助け合いで解決する仕組みをつくり活用されている	
	(基本的な考え方) 要支援の方は、身の回り動作は自立しているが、通院・買い物など生活支援サービスを必要とする人や公共交通機関が利用できなくなった人が多くなっている。民間サービス等の活用、新たな生活支援の担い手づくりなど生活支援を必要とする相談に対する対応力の強化を推進する。	
	①	介護保険制度に加え、民間サービスやボランティアの活用、民生委員・児童委員との連携等により地域の高齢者の様々な相談に対応できるようにしている。また、ヤングケアラーなどの家族介護支援について取り組んでいる。
	②	「通いの場」でのつながりから生まれる助け合いを把握するとともに、生活支援サービスの担い手について住民や関係者を交えて協議できる場(地域支えあい会議など)を設けている。
	③	地域で暮らす高齢者の様々な課題について協議している生活支援体制検討会議での検討内容を見直し、課題解決に向けて協議を行っている。
④	在宅で生活している「ひとり暮らし高齢者」の生活の質の向上を目指し、住み慣れた地域で安心して暮らすことができるような支援を行っている。	
センター 記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地区ごとのアセスメントを行い課題分析を行うとともに、連合自治会と連携した生活支援体制検討会議を積極的に開催しています。 ・ひとり暮らしの高齢者が孤立しないよう民生定例会に定期的に参加し、情報共有と連携をしています。 ・生活上の困りごとを互助で解決できるよう、住民同士の通いの場において、地域支えあい会議を開催しています。 ・ヤングケアラーの外部研修に参加し、センター内で報告会を行うことで知識や対応力の向上に努めています。
	現在課題と 感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・地区によっては、互助への働きかけに対して負担感を感じる場合があります。
	目標達成の ための今後の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会、民生委員、生涯クラブなどに向け、互助の取り組みについて根気よくはたらきかけを続けます。 ・「地区の課題」や「地区の望ましい姿」についての根拠が説明できるよう、地域アセスメントを深めます。
評価 調査 者 記入欄	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援の一つとして移動スーパーが取り入れられ、地区ごとに集まりやすい場所で曜日と時間を決めて、買い物支援の仕組みづくりに取り組まれています。 ・民生定例会に定期的に参加し、情報共有するとともに、地区ごとの課題分析をもとに、連合自治会と連携した生活支援体制検討会議を積極的に開催されています。
	次のステップ に向けた 気づきや期待 したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者・老々介護をされている世帯・ヤングケアラーの方々が孤立しないよう地域の繋がりが希薄なところへも行き届く支援の充実に期待します。 ・地域の民間事業所や社会資源への啓発を通じて、新たなネットワークが構築されることを期待します。

評価項目・着眼点	基本目標3:高齢者や家族が必要な医療・介護サービスを利用しながら望む場所で生活を継続している	
	(基本的な考え方) 要支援認定を受けた高齢者は増加傾向にあり、今後、要介護者の増加が懸念される。地域包括ケアシステムでは、中・重度者の高齢者の生活機能やニーズに対応できる多様なサービスや住まいの確保を行う。	
	①	フレイルの人の要介護への移行を遅らせるために医療・介護関係者の連携を促進するほか、一般高齢者の健康増進に向けた取組(介護予防教室、健康講座など)を推進している。
	②	人生会議(ACP)を自宅や介護施設等、地域全体で標準的な取り組みとできるように、住民向けの啓発活動を継続して実施している。
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援に向けたケアプラン作成ができるようセンター内・外でケアプラン勉強会や姫路市の考え方の共有を行いました。 ・地域の専門職と連携し、ケアマネ研修や住民向けの公民館講座で人生会議をテーマとして開催しました。様々な場でパンフレットをもとに啓発しています。 ・多職種で情報交換会を行い、地域課題の共有や事業所同士の連携強化の場を設けました。
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・人生会議についてはまだまだ知られていないのが現状であると感じます。 ・生活困窮者や住まいの確保、身寄りがない人の相談が増えており、つなげる社会資源がなかったり、時間や手続きの面で制約があったりすることがあります。 ・地域の専門職が個々に行き詰っている場面があります。
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者だけでなく、あらゆる住民に対して人生会議について啓発する機会を増やしていきたいと考えます。高齢者向けの通いの場だけでなく、若年世代が集まる場や、小中学校など、多様な世代に向けての啓発を行っていきます。 ・多職種情報交換会として、地域の専門職が事業所を越えてつながれる場づくりを定着化させます。
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種で情報交換会を行い、地域課題の共有や事業所同士の連携強化の場を定期的で開催し、地域の専門職が事業所を越えてつながれる場づくりが行われています。 ・地域で暮らしていくために必要な人生会議をテーマにした講座を開催されるなど、住民や地域の専門職に浸透するように努力されている。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの世代にあった発信の仕方を取り入れながら、情報共有できるよう引き続き啓発活動に期待します。 ・地域住民及び専門職に向け、人生会議の啓発を進められていますが、特に専門職への研修では、視点が終末期に向けての取り組みとなっています。今後は、地域包括支援センターの目的や目指す地域の目標となる視点(地域で暮らし続ける視点)を取り入れられたものになることを望みます。

評価項目・着眼点	基本目標4:介護人材を確保し、医療・介護をはじめとするサービスの提供が持続可能な状態である	
	(基本的な考え方)今後も介護サービスの利用者の増加と給付費の増大が見込まれる一方で生産年齢人口は減少し続ける見込みであり、医療・介護サービス需要を賄えるだけの担い手の確保や、介護サービスの提供が継続できるよう保険給付の適正化を図る必要がある。医療・介護関係者で急変時や入退院時の課題について協議を行い解決に向けた取組を推進するとともに、大規模災害時や新興感染症の拡大時において業務が継続して実施できるように支援体制の強化を図る。	
	①	医療・介護関係者で急変時や入退院時の課題について協議(多職種カンファレンスなど)を行い、解決に向けた取組を推進している。
	②	大規模災害時や新興感染症の拡大時においても業務を継続できるよう支援体制の強化を図っている。(BCP:業務継続計画の作成など)
センター 記入 欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> ・センター内研修にて、BCP及び感染対策・ハラスメントマニュアルの再周知をしています。法人内でアプリを活用した緊急時の連絡訓練を実施しています。 ・職場環境整備として、センター内のミーティングで情報共有と組織的判断を徹底するとともに、ピアチェック体制で相互に業務相談や改善提案を行いながら日々の業務を進めています。相談内容が困難事例であれば、姫路市の支援会議を活用しています。
	現在課題と 感じていること	・BCP及び感染対策・ハラスメントマニュアルを周知していますが、実際の場面での対応に不安が残ります。
	目標達成の ための今後の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にマニュアルの再周知をし、非常時に備えます。 ・ミーティングの質を高め、二人体制での対応を維持することで、対応の負担感が軽減できるようにします。
評価 調査 者 記入 欄	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に備え地域包括支援センター利用者のトリアージを行い、適切な避難行動が行われるように準備されています。 ・ピアチェック体制で相互に業務相談や改善提案を行いながら日々の業務を進めていくとともに、社会福祉協議会内の4つの地域包括センターが、同職種による会議をして情報共有を行い支援の質の向上に努められています。
	次のステップ に向けた 気づきや期待 したい点	・緊急時などに備えて法人マニュアルを活用しながら北地域包括支援センター独自の詳細マニュアルを更に作成しそれぞれが冷静に行動できるよう支援体制強化に期待します。

評価項目・着眼点	基本目標5: 認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って生活を継続している	
	(基本的な考え方) 認知症(若年性認知症を含む)の予防は、早期発見・早期対応が大切であるといわれており、予防に関する取組を推進する。住民一人ひとりが正しい理解に基づいて予防を含めた認知症への備えについて主体的に取り組むことが必要である。認知症は誰もがなりうるものであり、認知症の人の権利を守りながら住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指す。	
	①	認知症の人への理解を促進するために認知症サポーターの養成を推進するとともに認知症サポーターが役割を持って活動できる機会を設けている。
	②	認知症の人、家族が安心して暮らすことができるように企業・団体と連携して認知症バリアフリーの推進を図っている。
	③	高齢者が社会参加を継続することで認知症の予防や早期発見につながる取り組みの充実を図るとともに、軽度認知障害(MCI)の人への支援を行っている。
	④	認知症の相談窓口として、認知症相談センターとしての機能を持つ地域包括支援センターの周知を図っている。
センター 記 入 欄	取り組みの 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、生涯クラブ、自治会を対象に認知症サポーター養成講座を開催しています。3地区の小学校での講座は毎年の恒例となっています。 ・35箇所のでいきいき百歳体操の場で、認知症の気づきチェックリストを実施し、早期発見や対応を促しています。 ・認知症サロン3箇所、チームオレンジ登録1箇所を新規立ち上げをしました。 ・相談時には認知症ケアパスを活用し、必要な情報が届くようにしています。
	現在課題と 感じていること	<ul style="list-style-type: none"> ・個別相談の内容から、正しい認知症の理解は途上であると感じます。また、当事者や家族が気兼ねなく集える場が少なく、それを必要とする人に情報が届いていないと感じます。
	目標達成の ための今後の 取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・多世代に向け認知症を啓発する場を設けます。 ・居宅介護支援事業所や医療機関と連携し、当事者や介護者の集いの場の情報提供を行います。 ・公民館、地域サポート型特養と協働し、誰もが気兼ねなく集えるサロンを立ち上げます。
評価 調査 者 記 入	評価で確認 した特徴的 な取り組み や工夫点	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症を理解するために地域や学校で講座を開催したり、気づきチェックリストを実施したりと身近なところから活動されており、認知症サロン3箇所、チームオレンジ登録1箇所を立ち上げられています。 ・特に小学校においてはオープンスクールなど若年層にも浸透するよう啓発が定着しています。
	次のステップ に向けた 気づきや期待 したい点	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の人、家族が安心して暮らすことができるよう、若年性認知症の方をはじめ、本人参加や家族支援が充実していくことに期待します。